

報 告

“泉州 RUSH” プロジェクト報告

——大阪観光大学学生による地元地域活性化に向けた取り組み——

橋 本 佳 恵

1. “泉州 RUSH” とは

(1) “泉州 RUSH” プロジェクト発足の経緯

地元泉州地域の活性化を目指して本学学生グループが“泉州 RUSH”プロジェクトを立ち上げ、これまでさまざまな活動を展開してきた。本論は、“泉州 RUSH”プロジェクトの発足の経緯と今日までの取り組み、さらに、プロジェクトの意味と効果について中間報告するものである。

“泉州 RUSH”発足のきっかけは、2008年夏に実施された高校生向けのオープンキャンパスイベントであった(朝日新聞 2008年8月11日(月)朝刊)。本学や観光学に興味をもって各地からやって来てくれる高校生たちに、大阪観光大学での“学び”と大学近隣地域について知ってもらうための大学生による企画の一つである。かかわった学生らによれば、「来校してくれた高校生たちは泉州の情報をほとんどもっていなかった」。そして、企画を進めるなかで、「実は自分たち学生自身も地域についてよく知らない」ことに気付いた。

本学が位置する泉州地域は、関西国際空港や“だんじり”祭り、近年では“水ナス”や“泉州だこ”でも知られるようになってきている。すぐ隣には海山が広がり、美しい景観が点在しており、森林率が全国最下位といわれる大阪府下にあつて緑も豊かである。のどかな田舎かといえば、世界から人びとや物資が集まる関西国際空港や大型商業施設があり、地域には自然と近代的な施設が共存している。農産物や海産物はとりわけ豊富であり、域外からの来客を案内しようと思えばどのような要望にも応えることができる。魅力的な土地であるに違いないのだが、残念ながら外部にはその良さが十分に認知されているとはいえない。

日本各地から本学にやって来た学生たちが大学の近隣に住まい学ぶなかで発見した地域の魅力を「多くの人たちに知って欲しい」、そして、「この地で観光学を学ぶ学生として泉州の情報を積極的に発信していきたい」。そのような想いが発端となって、2008年夏、学生有志による“泉州 RUSH”プロジェクトが発足した。メンバーの出身地は日本全国さまざまであるが、皆

に共通するのは、泉州が貴重な大学生生活4年間を過ごす地であるということである。「泉州地域が人びとや情報が集まる場所となるように」、そして、「勢いよく流れる」「突進する」といった“rush”の語の意味の通り、「自分たちも力強く進んでいきたい」。「泉州 RUSH」というプロジェクト名は、響きの良さの上に、学生たちのそのような熱い気持ちが込められた地域活動の総称である。

(2) 最初の取り組み－地元の若者の観光行動と地域認知に関する調査の実施－

泉州地域は、大阪府南部、堺市以南の9市4町（堺市、和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町）からなる。大阪観光大学がキャンパスをもつ泉南郡熊取町は、南泉州地域に位置し、人口4万5千人弱（2009年11月末）、東西約5キロメートル、南北約8キロメートル、面積わずか17平方キロメートルほどの小さな町であるが、大阪体育大学、関西医療大学、本学の3大学がキャンパスを、京都大学が原子炉実験所を置く大学町でもある。

若者比率が高い町であることから、まず、地元の若者たちが地域でどのような観光行動をとり、地域の魅力についてどのように認知しているのかについて調べることにした。上述の3大学と隣接する泉佐野市の航空保安大学の学生、泉南市にある大阪府立泉南高等学校（現：大阪府立りんくう湘南高等学校）の生徒を対象として質問紙調査を行った。1000枚を超える回答を得、その結果については、2008年11月1日、本学“明光祭”において報告を行った。

調査結果の詳細は本論では省略するが、熊取町・泉佐野市を対象とする「地域の魅力」として最も多く挙げられた項目は、①海や山などの豊かな自然、そして、②高台や海岸付近から見る海に沈む夕陽や夜景などの美しい景色、であった。一方で、「実際に訪れたことのある場所」は、①臨海エリアの大規模商業施設や、②その付近の海辺、といった一部の地域に集中しており、市町内に点在する文化財や建造物、歴史的地区、山間部や森林地帯、また、港や市場などへの訪問経験については、かなり限定されたものであることが分かった。

2. 大学と地域の連携講座－「泉州観光学入門」講座－の開設

(1) 地域連携講座の開設

地域の文化財や歴史遺産、あるいは、美しい里山や緑豊かな自然景観などが地元の若者にあまり知られていないという結果は、調査を実施したメンバーたちの予想をはるかに上回るものであった。本学の学生についていえば、全学生のおおよそ半数が地方出身者であり、アジア諸国からの留学生も多い。彼（女）らの大多数は大学の近隣で一人住まいをしており、多くが卒

業と同時に泉州から離れていく。本学観光学部のカリキュラムには、地域における実習科目なども設置されているものの、地域にかかわる機会をもつことなく卒業していく学生も少なくない。ここで過ごす学生たちにとって泉州は大学生活 4 年間で過ごす場所であることから、「地域講座が開講されれば、多くの学生が興味をもって参加してくれるのではないか」、「フィールドワークを行いたい」、「地域の人たちと一緒に学べたら」など構想はふくらんだ。RUSH メンバーの発案により、授業化については橋本が、学外とのやり取りは黒田能史（本学企画広報課（当時））が中心となり、正課としての講座の実現可能性が模索されることとなった。

地域連携を従来より推進してこられた本学観光学部学部長の中尾清教授にアドバイスをいただきながら、教務課との打ち合わせを経て、2009 年前期科目「泉州観光学入門」として開講されることとなった。①生活はしているが十分とはいえない地元地域について多方面から学ぶ機会となること、②地域の人びとと交流する機会となること、③学生ならではの視点で地域の魅力を発見・提案すること、が講座の目的である。

熊取町役場とは本学の開学当初から官学連携が進められており、地域住民に向けた講座や公民館での本学教員による講演などが実施されてきた。「泉州観光学入門」講座の開設にあたっては大学と町との連携講座として位置づけていただけることとなった。また、泉佐野市にも連携講座として位置づけていただいた。さらに、熊取町が窓口となり、岸和田以南の 5 市 3 町で展開している“華やいで大阪・南泉州観光キャンペーン推進協議会”による活動、大阪府が推進している「大阪ミュージアム構想」についても、それぞれ講義いただけることとなった。

(2) 「泉州観光学入門」講座の概要

学内向けには 2 単位が付与される正課「観光学特殊講義 I 『泉州観光学入門』」として、地域に向けては「大阪観光大学・熊取町・泉佐野市連携講座『ふるさと再発見！泉州観光学入門』」として、2009 年 4 月から 7 月までの毎週木曜日、本学大学棟 2 階大講義室を会場として開講された。講座は、1) オムニバス形式の講義、2) 熊取町と泉佐野市のフィールドワーク、3) 学生・地域住民混合でのグループワーク、の 3 部から構成された。講座内容一覧は、文末に添付の資料の通りである。

1) 講義

初回の授業（4/9）では、RUSH 代表の古賀三也美・^{えだね}経種あす美の両名が、泉州 RUSH 発足から講座開講までの経緯と（前述の）調査結果の報告を行った。第 2 回（4/16）は本学中尾清先生による「泉州観光学とははじめ」、第 3 回（4/23）は熊取町役場住民部にぎわい創造課義本正彦氏による「熊取町の観光について」、第 4 回（5/7）には本学名誉教授布引敏雄先生による「中世の泉佐野・熊取」についての講義が行われた。その後は、泉佐野市、華やいで大阪・

南泉州観光キャンペーン推進協議会、大阪府、さらに、関西国際空港、りんくうプレジャータウンシークルのそれぞれご担当者が講義下さった。

2) フィールドワーク

4月25日(土)、5月16日(土)に、それぞれ、熊取町、泉佐野市を対象とするフィールドワークを行った。両日とも、学生と地域住民の方がた合わせて、バス座席一杯の30数名の参加があった。訪問場所やルート、昼食の場所やメニューの選定、当日の受付・誘導・車中での案内は、RUSHメンバーが担当した。

熊取町のフィールドワークでは、京都大学原子炉実験所→煉瓦館→中家住宅→(昼食)→永楽ダム→大森神社を見学した。熊取町役場住民部部長田中豊一氏と住民部義本正彦氏が同行下さった。京大原子炉実験所では所長と所員の方、煉瓦館では田中部長、中家住宅では学芸員の方、永楽ダムについては義本氏、大森神社では宮司さんから、それぞれ説明をいただいた。ローカルテレビ JCOM による同行取材があった。

泉佐野市のフィールドワークでは、さの町場→泉佐野漁協・青空市場(昼食)→りんくう公園→犬鳴山七宝滝寺と行者の滝を見学した。泉佐野市役所生活産業部商工労働観光課観光振興係長竹田敏宏氏が同行下さり、さの町場と犬鳴山については、それぞれ泉佐野観光ボランティア協会会長吉野勝氏とボランティアガイドの皆さんが案内下さった。

3) グループワークおよび報告会

学生と地域住民混合の8グループに分かれ、それぞれ課題に挑戦した。課題は、授業やフィールドワークなどを通してそれまでに学んだことを基礎として、①「地域の新たな観光ルートの提案」、②「地域活性化のための企画案」から、どちらか一方を選択するものであった。当初3回を予定していたグループワークがインフルエンザの影響で2回に短縮され時間的に厳しいものとなったが、休日に独自のフィールドワークを行ったり、授業時間外に集合して作業したりと、各グループ熱心に取り組んだ。

講座の最終回には、熊取町役場田中豊一氏、泉佐野市役所射手矢光雄氏、本学中尾清先生らにゲスト審査員となっていたき、コンテスト形式での発表会が行われた。グループワークに充てる時間も発表会での持ち時間も限られたものであったが、地域の歴史や“水”にこだわった新たな観光資源の発掘、泉州の食を取りあげたもの、関西国際空港を利用する外国人旅行者を対象とした新たなトランジットツアーの提案など、個性的な企画案が報告された。『熊取・泉佐野の今昔』をテーマとした若者向けの回遊ルートの提案」が最優秀賞に、「関西国際空港を臨むりんくうエリアに恋人たち向けのストーリーをつくり、キャラクターやモニュメントを置いて若者が集まるスポットとする企画案」が準優勝に選ばれた。優勝グループには、RUSHからの賞状、熊取町役場・泉佐野市役所・南泉州観光キャンペーン推進協議会から地域の観光

カルタと泉州産タオル・当地キャラクター“なすびん”ストラップが授与された。

補講期間に追加された特別会では、RUSH プロジェクトが作成したクイズ形式の修了試験が行われ、その後、全員での答え合わせとなった。最後に RUSH メンバーお手製の泉州名産の水ナスと玉ネギをかたどったクッキー、講座参加のサンキューカードが全員に配られ、集合写真撮影の後、半期の講座が終了した。

3. 「泉州観光学入門」講座後の活動

(1) 地域での活動報告・講演

新聞やローカルテレビなどの各種メディアで“泉州 RUSH”プロジェクトの活動が取りあげられたことがきっかけとなって、地域活動にかかわる多くの方がたから、さまざまな情報やアドバイス、連携の提案や講演の依頼をいただいた。

地域連携講座開始の記事（毎日新聞 2009 年 4 月 14 日（火）朝刊）をご覧になった和泉市の NPO「和泉 100 人委員会」理事長谷上邦子氏からは、人権文化センターでの講演の依頼をいただいた。人権や男女共同参画に関する活動を幅広く推進してこられた谷上氏によれば、女子学生が中心になって地域活動を展開しているということに関心をもたれたとのことであった。11 月 12 日（木）、和泉ゆう・ゆうプラザで、RUSH 代表 4 名が活動報告をさせていただいた。当日は、会場となった階段教室に 30 名ほどの和泉市の皆様が集合下さり、学生の発表を熱心に聴いて下さった。終了後にはさまざまなアドバイスも頂戴するなど、大変有益な機会となった。

熊取町役場からは、「あるふぁシティ熊取町づくり講演会」での講演の依頼をいただいた。交流センター・煉瓦館コットンホールを会場として 11 月 28 日（土）に行われた講演会には、熊取町の関係者 50 名ほどが集まり、熱心に耳を傾けて下さった。RUSH プロジェクト発足とそれまでの取り組みについて簡略に報告した後、地域連携講座で行った地域活性化提案のなかから、①「滝修行・泉佐野紀行」（瀬古ゆかりチーム）、②「1000 円でおなかいっぱい！泉州食ツアー」（伊藤江美チーム）、③「マーブルビーチ・ロマンチック改造計画」（古賀三也美・蔵満頭太郎チーム）、④「熊取・泉佐野今昔めぐり」（石田翔チーム）が発表を行い、その後、橋本が「地域みんなの町づくり」をテーマとしてミニ講義を行った。

提案や報告の内容は必ずしも熊取町が対象とされたものばかりではなかったが、考え方として参考になる点もあるからと発表の機会を与えて下さり、学生には大変良い勉強の機会となった。発表後には、学生と地域住民の方がたとの交流会が行われた。それまでの活動や連携講座などを通しての顔なじみも多く、関係の皆さんの心遣いにより大変暖かい雰囲気の中での交流

会となった。

(2) 泉州地域プロモーションバスツアーへの協力

泉州地域の活性化と関西国際空港の利用促進を目的とする泉州地域を巡るオリジナルなバスツアーが、毎年、泉州9市4町からなる「泉州地域プロモーション実行委員会」により実施されている。2010年春のツアーに向けた準備が、今年度は貝塚市が幹事となって進められているが、今回は、ツアーに新たに学生の視点を取り入れたいとのことで、RUSHメンバーが企画に参加させていただいている。RUSHが企画提案した“泉州の食”をテーマとする「泉州食のフルコース」ツアーが、実行委員会提案の2コースと共に採用されることとなった。2010年1月初旬、大阪北摂地域を中心に販売され、即日完売となったとのことである。2月～3月にのべ12回実施されるツアー当日には、旅程管理主任者資格を持つ学生らが添乗員として同行し、実行委員会の担当者と共にツアーの運営にかかわる。催行日に向け、現在は、ツアー内容や訪問箇所についての事前学習やツアーの下見などを行なっているところである。

4. “泉州 RUSH” プロジェクトの意味と効果

(1) 地域理解と交流の促進

地域連携講座では、本学の教員、地域行政、地域の産業関係者がオムニバス形式で講義を行い、産官学の連携講座としても充実した内容となった。華やいで大阪・南泉州観光キャンペーン推進協議会による講義の回には泉州特産の水ナスをイメージしたご当地キャラクター「なすびん」が、りんくうプレジャータウンシークルについての回にはシークルのキャラクターである「かもめのシークン」が特別ゲストとして登場し、会場を沸かせた。

講座を履修した学生たちからは、さまざまな感想が寄せられた。「それまで泉州について考えたことがなかったが、多くの魅力があることが分かった」、「泉州の魅力は自然だと思う。多くの人に泉州地域を知ってもらいたいし自分のできるところからアピールしていきたい」、「これをきっかけに、大学生生活4年間でもっと沢山の地域の魅力を見つけたい」。また、泉州地域出身の学生からは、「自分は泉州出身で地域のことを知っていると思っていたが、何も知らないことが分かりもっと知りたくなった」、「自分は泉州人だが地元どんな観光名所があるのか知らなかった。講義を通して多くの観光資源について知り、自分の地元の南泉州は素晴らしいところだと誇りをもった」。さらに、留学生からは、「来日してから大阪市内に住んでいるが、泉州は空気もきれいで故郷に似ている。泉州についていろいろ知ることができて良かった」。多くの学生が地域についての理解を深め、ある者は地域の豊かさに気付いて自信を得、別の者は地

域についての関心を高めた。

泉州の魅力について、食、景色、自然、その他さまざまな項目が挙げられたなかで、一番の魅力は“泉州地域の人”と答えた学生が殊の外多かったことが印象的であった。「泉州は素朴な親しみやすい地域でそれが魅力だ。このような地域に住むことができ嬉しく思っている」、「泉州地域の人は優しくあたたかい。泉州の魅力は何かと聞かれたら間違いなく人の温かさ」と答えます」。グループワークやフィールドワークを通して地域の人たちの優しさに触れた学生も多かったようで、地域イメージの向上や地域に対する愛着につながるきっかけともなった。

地域住民の方がたからは、「泉州地域について知りたいと思い参加したが、大変勉強になった」、「学生さんたちと親しく話が出来て楽しかった」、「若い人たちが地域のことを考えてくれていることが嬉しい」、「今後もこのような講座を開講してほしい」などの感想をいただいた。

熊取町・泉佐野市との連携講座として町報や市報でタイムリーな告知がなされたこともあり、13回の講義と2回のフィールドワークにのべ300人を超える地域住民の方がたの参加があった。今講座がきっかけとなって初めて本学に足を運んで下さった方も多いものと思われる。グループワークやフィールドワークなどを通して地域の方がたと学生との新たな交流も芽生えたようで、地域の方がたが学生を自宅に招いて下さったり、本学の学園祭を訪ねて下さったりと、地元ならではの交流が継続している。

(2) 学生の自立的な学びの実践

フィールドワークでの問題意識が発端となって“泉州 RUSH”プロジェクトが結成され、まわりの学生たちや大学当局、地域を巻き込みながら活動が展開されてきた。プロジェクトを立ち上げ活動の意思決定にかかわるコアなメンバー、その周辺に活動に関心を寄せる学生たちが徐々に集まってゆるやかな連携が形成され、現在では、学年や出身地域を越えた新しい学生のネットワークが学内に広がりつつある。

地元泉州地域の活性化という大きな枠組みのなかで、その時どきのテーマごとにリーダーとメンバーが自然と集まり、いくつかの活動が常時並行してそれぞれのリーダーのもとで自発的に進められている。先に述べた、若者の観光行動と地域認知に関する調査、地域連携講座、講演活動、地域のプロモーションを目的とするツアー企画への協力などの他にも、行政や各種団体などと連携して、地場の産品を用いた新たな商品の開発、高速道路のサービスエリアにおける地域プロモーション活動への協力、地域で活動する NPO との交流、さらに、地域の子どもたちに向けた展示発表、関西国際空港における外国人旅行者への聞き取り調査の実施など、幅広い活動が積極的に推進されており、本学が目ざす“観光の理論と実践”のまさに良き実践的

な学びの機会ともなっている。

オープンキャンパスからの経緯により、橋本と黒田がそれぞれ教・職員の立場でプロジェクトを支援しているが、学生・教員・職員三者の学内における垣根を越えた協調という点でもユニークな取り組みといえるだろう。

朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、ニュース泉南、観光経済新聞の各紙が泉州 RUSH を取り上げて下さり、ローカルテレビ JCOM は 2008 年 5 月、半月にわたり「旬！瞬！（しゅんしゅん）りんくう」で取り組みを紹介下さった。広報的側面での効果は意図したことはなかったが、ささやかに始まった活動が各種媒体で報じられたことで、多方面からさまざまな情報や声援、連携や共同研究の申し出などをいただいた。活動が学内外に認知されるにつれて、地域との窓口としての役割も期待されるようになり、そのことがまたメンバーのモチベーションを高め次の活動につながるなど、良い展開が生まれている。

5. 最 後 に

“泉州 RUSH”、敢えて大きな名称を掲げてスタートした地域活動であるが、開始から 1 年半、メンバーたちは地域について学びながら、学生の目線で地元地域の魅力発見や活性化の提案、情報発信を行ってきた。成果として誇れることはささやかなものであったとしても、大学生生活の後半をかけて取り組んできたプロジェクトであり、活動を通して学生たち自身が得た自信や達成感は大きなものであるに違いない。「地域講座に参加しなければこれほど多く地元の人と話す機会はなかっただろうし、伝統的な家庭料理を食べさせてもらう経験もなかったと思う」そう感想を寄せた地方出身の新生入生、「若い人たちが地域のことを考えてくれるのがとても嬉しい」と繰り返し声援を送って下さる地域の方がたの声、それらは、RUSH にかかわってきた学生たちへの何よりのエールである。

さて、プロジェクトを牽引してきた上級生たちは 3 月まで活動を継続するが、4 月からはそれぞれの場所で新たな社会人生活を開始することとなる。多くは泉州から離れていくが、彼（女）らはそれぞれの地で、今後は泉州の応援団としてこの地域の魅力を熱く語ってくれることだろう。そして、新年度からは下級生たちがプロジェクトを引き継いでいく。“泉州 RUSH” は、地域と連携し、泉州の活性化と情報発信という高い目標を掲げながら、その時どきにかかわる学生たちの関心と問題意識によりさらに新たな展開を目指すものである。

最後に、これまで中心となって活動してきたメンバーを紹介して結びとする。古賀三也美（福岡県出身）、経種あす美（島根県）、瀬古ゆかり（岐阜県）、伊藤江美（静岡県）、石田翔（山口県）、飯田有紀（大阪府）、高田彩香（大阪府）、蔵満顕太郎（大阪府）。

資料 「泉州観光学入門」講座概要

熊取町・泉佐野市連携講座 ふるさと再発見！「泉州観光学入門」

日程	テ ー マ	講 師
第1回 (4/9)	全体説明 泉州 RUSH プロジェクトチームによる 「地域の若者の観光行動調査結果」報告	橋本佳恵 本学・観光学部准教授
第2回 (4/16)	本学教員による講義 (1) 「泉州観光学ことはじめ」	中尾清 本学・観光学部教授, 観光学部長
第3回 (4/23)	地域行政担当者による特別講義 (1) 「熊取町の観光について」	義本正彦 熊取町役場住民部にぎわい創造課
第4回 (5/7)	本学教員による講義 (2) 「中世の泉佐野・熊取」	布引敏雄 本学・名誉教授
第5回 (5/14)	地域行政担当者による特別講義 (2) 「泉佐野市の観光について」	射手矢光雄 泉佐野市役所生活産業部商工労働観光課長
第6回 (5/28)	本学教員による講義 (3) 「街の魅力について－国内外事例紹介－」	橋本佳恵 本学・観光学部准教授
第7回 (6/4)	地域産業関係者による特別講義 (1) 「地域と空港」	石川浩司 関西国際空港株式会社経営戦略室調査役
第8回 (6/11)	地域産業関係者による特別講義 (2) 「地域と商業施設」	山口雅弘 りんくうプレジャータウンシークル支配人
第9回 (6/18)	地域行政担当者による特別講義 (3) 「大阪府の観光について」	藤山敦雄 大阪府府民文化部都市魅力創造局 都市魅力課総括主査 大野聡 大阪ロケーションサービス協議会チ ーフコーディネーター 華やいで大阪・南泉州観光キャンペーン推進 協議会
第10回 (6/25)	グループワーク (1) テーマ「地域の魅力発見」	橋本佳恵 本学・観光学部准教授
第11回 (7/2)	グループワーク (2) テーマ「地域の魅力発見」	橋本佳恵 本学・観光学部准教授
第12回 (7/9)	グループワーク「地域の魅力発見」報告会	田中豊一 熊取町役場住民部長 射手矢光雄 泉佐野市役所生活産業部商工労働 観光課長 中尾清 本学・観光学部教授, 観光学部長 橋本佳恵 本学・観光学部准教授
第13回 (7/16)	まとめ	橋本佳恵 本学・観光学部准教授

調査結果報告会 (2008 年 11 月 1日)



「泉州観光学入門」(2009 年 4 月～7 月)



和泉市講演会 ゆう・ゆうプラザにて (2009年11月12日)



あるふぁシティ熊取町づくり講演会 煉瓦館コットンホールにて (2009年11月28日)

